

# 令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02300000	産業振興部 環境課	
大事業	E1	6つのまちづくり宣言	地域再生	K P I	04 衛生費	02 清掃費	03 環境整備費
		目指す姿	地域の魅力をアップデート！		あい愛バス利用者数 住みよいまちだと感じる人の割合		目標値
中事業	01	主要な取り組み	みんなのまちを、みんなでつくる	目標年度	令和6年度		
小事業	01	生物多様性地域連携促進事業（定住）					

インプット	事業実施の背景にある課題	生物の多様性は、人間が行う開発等による生物種の絶滅や生態系の破壊、社会経済情勢の変化により里山管理不全による里山の荒廃、気候変動やグローバル化による外来種等による生態系のかく乱等の深刻な危機に直面している。 圏域では、「自然環境調査」及び書籍「守りたい加茂の豊かな自然」の刊行で、圏域の自然が豊かで貴重であることが示され、「生物多様性加茂プラン」の策定により、8市町村が一丸となって事業を行っている。今後我々が生きていく上で自然との共生について、毎年実施している自然環境調査のデータ追加も行い、理解を深めることが重要である。				
	事業目的	(1) 対象（誰、何を対象にしていますか） 圏域内外の住民 (2) 目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるか） 圏域の人々が生物多様性の保全の意識を高めている。また、圏域外からは、圏域の豊かな自然に魅力を感じ、来訪する人が増加する。				
	事業概要	圏域の自然環境を保全するため、8市町村共同で環境フェアを開催し、圏域内外に情報を発信する。圏域の自然環境調査を継続し、基礎データを充実させる。書籍「守りたい加茂の豊かな自然」を活用した学習会を開催する。生物多様性地域戦略を実践し、地域間交流を深める。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	290	4,470	4,788	4,388	4,388
	決算額	250	464	3,723	3,779	
	年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外）	705 / 0				

アウトプット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	生物多様性学習会の実施回数	目標値			4	5
		実績値			2	

アウトカム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06	
	圏域住民の関心度（人） 環境フェア及び学習会の圏域住民の参加者数	目標値	2000	2000	2500	3000	3500
		実績値	0	0	2527	2483	

実績	実績	取組 e-kamonまるごと環境フェア2023実施 26団体参加 参加者：3421人（圏域2,394人圏域外1,027人） 取組 自然環境基礎調査等業務を美濃加茂自然史研究会へ委託、カワゲラウォッチングへの授業協力、生物多様性学習会開催 ・美濃加茂市（1/20）41人 「森とシカと人」 ・白川町（3/2）48人「白川の魚とサンショウウオ「オオサンショウウオ」がいなくなる」 ・子ども向けパンフレット配布実績 757部
	効果	自然環境基礎調査の継続により新たなデータの収集や、結果を踏まえた環境フェアの講演会「シカの食害」（多田多恵子氏）で、野生動物の食害や、生物多様性学習会でのオオサンショウウオの交雑などの生物多様性の地域課題の問題提起に繋がった。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	K P Iとの整理ができていなかったため5年度途中で活動指標を変更（変更前：環境フェア、生物多様性学習会の参加者数）した。変更後は生物多様性学習会を地域ごとの特色を活かしたものと目標設定したが変更が下期であったため構成町村との調整が不十分で目標の達成には至らなかった。開催した内容としては参加者も多く好評であった。
	K P I分析 目標値の達成 ・未達成要因	環境フェアについては、周知や会場内の案内等入念に行ったが、市内のイベント時期と重なったため目標の達成には至らなかった。事業の目的に沿った内容とイベントとしての魅力をどう両立するか、また開催時期、構成町村の主体的な関わりをどう誘発するかが課題。
	実績からR06年度の事業の方向性	環境フェアについては、回を重ね定着してきている反面、マンネリも否めない状況にある。開催時期、手法を変更する必要があるため議論に入っている。 自然環境調査の結果（成果物）「守りたい加茂の豊かな自然」に関しては刊行から5年が経過し追加調査をしているが体系的にアップデートする必要がありその方法と活用について今後、検討していく。

# 令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02300000	産業振興部 環境課		
大事業	E1	6つのまちづくり宣言	地域再生	K P I	02 総務費	01 総務管理費	06 企画費	
		目指す姿	地域の魅力をアップデート!					
中事業	01	主要な取り組み	みんなのまちを、みんなでつくる				目標値	120,000人 80.0%
小事業	06	ローカルSDGs推進事業		目標年度	令和6年度			

イン プ ット	事業実施の背景にある課題	SDGsは一人ひとりがその内容を咀嚼し、自分にできることに取り組むことが求められるが、SDGs全般の概念、美濃加茂市が取り組む「ローカルSDGsのみかも」の理解が十分でないこと。				
	事業目的	(1)対象(誰、何を対象にしていますか) 市民、市内事業者 (2)目的 市民、市内事業者に対してローカルSDGsを推進し、実現する				
	事業概要	・SDGs未来都市の選定を受け、SDGsの推進のための事業を行う ・ソーシャルビジネスシティに向けた取り組みを行う				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額		35,000	30,000	1,000	1,000
	決算額		34,097	3,681	1,000	
	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	300 / 0				

アウト プ ット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06	
	普及啓発活動(パネル展等)	目標値		3	3	3	5
		実績値		1	4	6	

アウト カ ム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06	
	SDGsの内容まで知っている人の割合	目標値		20	30	40	50
		実績値		27.3	35.6	40.4	

実 績	実績	推進パートナー企業登録(新規登録12事業所)合計46 東京海上日動SDGsフェスティバル参加 清流の国ぎふSDGsフェスティバル参加 市内啓発事業パネル展(環境フェア、市民まつり、成人式) SDGs東海学生サミット参加発表 啓発動画作成 出前講座4回
	効果	令和2年度にのみかもSDGs宣言をし、令和3年度に内閣府から「SDGs未来都市」に選定され、「ローカルSDGsのみかも」の取組を開始した。まずSDGsの中でも脱炭素に係る部分で、令和4年度に重点加速化事業が採択され、住宅用太陽光、蓄電池の補助金を開始した。また脱炭素とSDGsパートナー企業を認定することで、市内へSDGsの取組を浸透させて、イベントで、SDGsのPRをして、SDGsの内容を知っている人の割合が、40.4%となった。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	環境フェアや市民まつり、成人式などで、パネル展を実施し、パンフレットも配布して、大きなイベントで啓発できた。また、大きなイベントや、今年度はSNS用に動画を制作して、広告掲載を開始した。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	令和5年度から環境課へ所管替えとなったが、イベント等を活用し、市民満足度調査で、目標値を達成できた。しかし、来年度の50%の目標値は高いので、また、啓発について、さらに強化していく。
	実績からR06年度の事業の方向性	基本的にイベントを活用した啓発と合わせて、SNSを利用した、動画広告などや様々な媒体等でも啓発をしていく。

# 令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02300000	産業振興部 環境課			
大事業	E1	6つのまちづくり宣言	地域再生	K P I	04 衛生費	02 清掃費	03 環境整備費		
		目指す姿	地域の魅力をアップデート！						
中事業	03	主要な取り組み	地球とまちの環境を守る						
小事業	01	環境美化推進事業		目標年度	令和6年度				
							あい愛バス利用者数 住みよいまちだと感じる人の割合	目標値	120,000人 80.0%

イン プ ット	事業実施の背景にある課題	近年、大気汚染などの環境問題が増えておりこれらの問題は生態系や人間の健康に悪影響を及ぼす恐れがある。特に地域住民の環境への関心の低下は犯罪や環境破壊につながるリスクがある。市ではポイ捨て等防止条例等が制定されているため、環境美化の促進を図る必要がある。				
	事業目的	(1)対象 市民（推進委員は市民から選出）  (2)目的 地域住民の環境美化意識の向上				
	事業概要	・環境美化推進員16名による8地域における活動を支援する ・看板設置による不法投棄の防止 ・まちを美しくする意識高揚を目的に、自治会等の花壇の為の花の苗を配布する				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額 決算額	2,075 1,661	2,826 2,279	3,043 1,902	2,878 2,821	3,084
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	706 / 504					

ア ウ ト プ ット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06	
	花苗配布回数	目標値	1	1	1	1	1
		実績値	1	1	2	2	

ア ウ ト カ ム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06	
	参加団体数(自治会)	目標値	69	60	60	60	60
		実績値	50	59	55	53	

実 績	実績	花苗の配布団体数 6月 7,210株 53団体 11月 6,645株 50団体 看板配布 139枚(不法投棄の抑制に関するもの、犬のフン処理の関するもの)
	効果	花苗の配布による地域の美化活動や勘案等によるポイ捨て等の啓発により、環境美化の促進が図られる。看板の配布で各個人の土地に対する不法投棄や犬のフンの未処理の減少。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	年2回の花苗配布を行うことで、地域の美化の時間を長くとることが出来た。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	花壇の管理団体構成員の高齢化により管理を行う方が減ってきているため、目標値には届かなかった。
	実績からR06年度の事業の方向性	引き続き、花苗配布や看板による啓発は市民に定着するまでは継続することで意識の定着を図る。

# 令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02300000	産業振興部 環境課		
大事業	E1	6つのまちづくり宣言	地域再生	款項目	04 衛生費	02 清掃費	03 環境整備費	
		目指す姿	地域の魅力をアップデート!					
中事業	03	主要な取り組み	地球とまちの環境を守る	K P I	あい愛バス利用者数 住みよいまちだと感じる人の割合		目標値	120,000人 80.0%
小事業	02	ごみ減量推進事業			目標年度	令和6年度		

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	ごみの処理によってごみの埋め立てや水質汚染などが起こり、地球環境に悪影響を及ぼす恐れがある。また、ごみの処理は二酸化炭素等の有害物質の排出源となる。ごみの量を減らさないで地域の美観に悪影響を及ぼし住みやすさや観光の面でマイナスとなってしまう生活系可燃ごみの処理コストの増加につながる。															
	事業目的	(1)対象 市民及び事業者  (2)目的 生ごみや庭木の剪定木を処理機で処理し、コンポストによりたい肥化して、生活系一般可燃ごみの減量を促す															
	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭のごみ減量に有効な機器の購入補助</li> <li>ほかしの製造補助</li> <li>エコバッグ等環境配慮製品の製造補助</li> <li>市民団体等による資源回収活動を支援するための奨励金交付</li> </ul>															
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06											
	<table border="1"> <tr> <td>予算額</td> <td>1,418</td> <td>1,608</td> <td>1,691</td> <td>1,703</td> <td>1,598</td> </tr> <tr> <td>決算額</td> <td>1,127</td> <td>1,430</td> <td>1,448</td> <td>1,703</td> <td></td> </tr> </table>	予算額	1,418	1,608	1,691	1,703	1,598	決算額	1,127	1,430	1,448	1,703					
予算額	1,418	1,608	1,691	1,703	1,598												
決算額	1,127	1,430	1,448	1,703													
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	1,007 / 120																

アウト プ ット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06	
	年間資源回収量(t) 市民団体+事業者	目標値	3350	3350	3350	3350	2760
		実績値	1514	1570	2088	2085	

アウト カ ム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06	
	1人1日あたりの生活系可燃ごみ 排出量(g) 環境省公表の廃棄物処理法に基 づく算出方法	目標値	587	585	583	581	490
		実績値	552	615	517	493	

実 績	実績	家庭廃棄物処理機器 85機補助 (コンポスト24、処理機12、粉碎機24、バケツ5) 生ごみ発酵促進剤(300g入り8,000袋) 環境配慮製品(0件) 資源回収(3団体交付)
	効果	ごみを減量しリサイクルを促進することで、二酸化炭素排出削減、最終処分場延命、処理コスト削減に繋がった。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	市民団体回収量が減って、事業者回収量が増えているが、総量は減ってきているため目標値を達成できなかった。新聞を購入している家庭が減っていることが大きな要因として考えられる。  現実的ではない目標値となっていたため、R6年度以降の目標値を変更する。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	目標値を達成することが出来た。コロナ禍を経て、無駄な買い物が減るなどの消費行動の変容により家庭の可燃ごみの排出量が近年減少していると考えられる。  目標値を大きくクリア出来ているため、R6年度以降の目標値を修正した。
	実績からR06年度 の事業の方向性	今後も継続してごみ減量を推進していくが、ごみ減量推進に関する先進事例などについて、情報発信していきたい。

# 令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02300000	産業振興部 環境課
大事業	E1	6つのまちづくり宣言	地域再生	款項目	04 衛生費	02 清掃費
		目指す姿	地域の魅力をアップデート!	K P I	あい愛バス利用者数 住みよいまちだと感じる人の割合	
中事業	03	主要な取り組み	地球とまちの環境を守る	目標値	120,000人 80.0%	
小事業	03	環境基本計画推進事業		目標年度	令和6年度	

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	平成23年に東日本大震災が発生しエネルギー不足による化石燃料への依存度が高まったことで温室効果ガス排出量が増加し、日本の環境政策では、特に地球温暖化対策や再生可能エネルギーの分野において転換期を迎えた。地球温暖化対策、ごみ問題、生物多様性保全対策は、地方自治体や市民も自らの課題として認識し行動を起こすことが求められている。				
	事業目的	(1)対象 市民、事業者、市 (2)目的 豊かで快適な環境の保全と創出を実現する				
	事業概要	「第3次みのかも環境まちづくりプラン(美濃加茂市環境基本計画)」に基づき、4つの分野で定める『重点プロジェクト』(以下「P」)に取り組む 生物多様性を守るP 循環型社会をつくる4Rを推進するP 地球にやさしいエコタウンP 次世代につなぐ環境教育P				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	1,098	1,179	4,192	1,752	1,748
	決算額	727	724	3,849	1,419	
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	1,612 / 0				

アウト プ ット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	実施した事業数(市民、事業者との協働含む)	目標値	19	20	20	25
		実績値	6	23	20	32

アウト カ ム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	事業の参加人数 (キャンドルナイト含む)	目標値	4000	4000	4000	5500
		実績値	570	1043	5000	10796

実 績	実績	・アルゼンチンアリ防除を実施 ・生活学校の段ボールコンポスト講習会による普及活動 14人 ・地球温暖化対策の環境学習の実施13人 ・緑のカーテン講習会31人、川の生き物観察会11人 ・クリスマスリース講習会28人、野鳥観察会18人 ・地域団体によるキャンドルナイトの開催2団体2,800人 ・資源回収団体による利用者 7,926人
	効果	環境について、市、事業者、市が協働で事業を行い、市の人口の1割程度にアプローチできた。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	活動事業数は、昨年度より増えた。コロナも明けてイベント等の事業が開催しやすくなった。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	コロナ禍でできなかった事業やイベントが実施できており、大きく参加者が増えたことで目標値を達成できた。 目標値を大きく達成できたため、R6年度以降の目標値を上方修正する。
	実績からR06年度の 事業の方向性	方向性としては、このままで、さらに事業への参加者を増やす手法を取り入れ、環境についての市民、事業者、市と3者の事業を継続し、目的を達成する。

# 令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02300000	産業振興部 環境課			
大事業	E1	6つのまちづくり宣言	地域再生	K P I	02 総務費	01 総務管理費	06 企画費		
		目指す姿	地域の魅力をアップデート!						
中事業	03	主要な取り組み	地球とまちの環境を守る						
小事業	05	地域脱炭素移行・再エネ推進事業		目標年度	令和6年度				
							あい愛バス利用者数 住みよいまちだと感じる人の割合	目標値	120,000人 80.0%



イン プ ット	事業実施の背景にある課題	近年、気温の上昇や豪雨の増加、それに伴った土砂災害など、地球温暖化による影響が顕在化し、2015年にバリーで開催された「国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)」では2020年以降の気候変動問題に関する国際的な枠組みとして、「パリ協定」が採択されたことを受け、わが国では「地球温暖化対策計画」が閣議決定され、温室効果ガスの国内の排出削減・吸収量の確保において、2013年度比4.6%減という目標が掲げられた。本市においても（ゼロカーボンシティ宣言）を行い、「2050年カーボンニュートラル」を実現するためには、省エネ技術と太陽光発電設備導入推進を柱を進める必要がある。				
	事業目的	(1)対象 市内事業所、個人 (2)目的 2050年のカーボンニュートラルの実現 再生可能エネルギーを利用比率を高め二酸化炭素の排出を抑制する				
	事業概要	重点加速化事業により太陽光発電設備等や、電気自動車、V2H、ZEB、ZEH、高効率空調機器、LED照明などの補助メニューにより、再エネを推進。				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額		81,000	70,249	62,250	
	決算額		24,491	27,500		
	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	1,000 /			0	

実  
績

実績	二酸化炭素排出抑制対策事業（地域脱炭素実現に向けた再エネの最大限導入のための計画づくり支援事業） 地域脱炭素・再エネ推進事業（重点対策加速化事業） 住宅用太陽光発電設備等補助件数 31件（交付決定者数）
効果	再エネ導入 住宅用太陽光発電設備等31世帯補助 年間78.8tCO <sub>2</sub> 削減効果



評  
価  
分  
析

活動指標分析 目標値の達成・未達成要因	R4には住宅用太陽光発電設備と蓄電池の補助、R5には電気自動車とV2Hの補助と毎年メニューを追加している。ZEBやZEHといった建築の知識が必要になるメニューはハードルが高い。
K P I 分析 目標値の達成・未達成要因	メニューは追加しているが、計画全部の補助メニューを追加することや、補助金額に対して、市民が脱炭素への取組に賛同して、再エネ導入や省エネに多額に投資できるかで、執行率を上げるのはハードルが高い。環境省の実施要領から補助設備の仕様の適合や、補助条件などの要綱作成、補助申請の審査体制のなどのハードルがある。
実績からR06年度の事業の方向性	メニューは未定だがメニューを増やして、執行率を上げていく。



ア  
ウ  
ト  
プ  
ット

活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
補助メニュー数	目標値		1	3	5
	実績値		2	4	



ア  
ウ  
ト  
カ  
ム

K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06
重点対策加速化事業の執行率(%)	目標値		90	90	100
	実績値		90	30	